

Title	三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1957
Jtitle	史学 Vol.30, No.1 (1957. 7) ,p.135- 135
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19570700-0135

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

樂・舞踊に關しても同様なことが窺えると云われ、更に民謡の音階、旋法などからも明確に地域性が讀み取れ、その氣候的制約の面、又文化傳播經路を物語る面など、この方面からの地理的研究が可能であると示唆されている。それは更に宗教も民俗も道德も犯罪も充分氣候條件に基本的に左右された所産であり、今日都會生活を頂點とする文明社會の各部分的現象にすら、自然の大きな制約が尙も讀み得ることを力説されているのである。かゝる氏の取上げ方、自然環境中氣候的要素との關連、制約から説明される行き方は、氣候七百年周期説の結實にみられるように氏がハンチントンの影響を受けられた結果にもとづくものと思われ、中には周期説を前提とせぬ場合や、理解しがたい箇所もあり、恰も特異な論、やゝ誇張すれば地理學に迂遠な奇抜な意見を發表されるかに見られるが、併しよく本書を通讀されれば氣付かれることと思ふが、氏の意圖する所は奇警な論になく實は甚だ地味な部分にあると云わざるを得ない。それは歴史學に於いて實證が基本であり今日も尙我が國にあつてこれが理論以上に掘下げられる必要の認められるのと同様に、地理學の側にあつても現象を説明するに際してまだ、基本的な面に於いて余り氣付かれずして問題を解く鍵を藏する要素の多く残されていることを強調されているのに外ならない。そしてそれらをより明らかにしその成果を繰込んで行くことによつてより正しい把握そして解明の道が開けて行くこと

書評

を指示されているのであり、手元を更に廣く見渡せと強調している點に本書に於ける氏の眞骨頂があると思ふのである。その點はこの書もまたオーソドックスなものとして指摘出來よう。

以上本書の一部に觸れたに過ぎず甚だ不十分な紹介に終つてしまつたが、一言にして云えばより廣い知識の下にこそこの學問の發展がありその必要を力説されたのが本書であると云える。かゝる本書に對しこの面に一層注目し廣い土臺の上に伸びて行く學徒の出づることが待望されるのである。ともあれ本書を手にする時嘗ての楽しい氏の講義に再び接する思いを禁じ得ない。飽かせず讀ます概説書として一讀をお奨めする。「A5判 横組 本文二六二頁 参考文献三二頁 國別地理學雜誌目錄九頁 索引四七頁 上下二冊本及び一冊本 三一年四月(上)・六月(下)九月(一冊本)刊」(井口悦男)

彙報

三田史學會例會報告

第四四七回例會 昭和三二年五月一日 於六番教室

コンスタンチヌス改宗の問題 近山 金次氏